

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民事訴訟法	塚本 順久	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	民事訴訟法は、民事訴訟に関する手続についての基本法です（第1条）。民事訴訟手続は、個人間の法的な紛争（主に財産権に関する紛争）を、裁判官が当事者双方の言い分を聞き、証拠を調べた後に、判決をすることによって解決を図る手続です。本講義では、主に、民事訴訟法が定める第一審手続（訴え提起から判決確定まで）の概要について説明します。					
到達目標	民事訴訟法の条文を読み解く。 民事訴訟手続の全体の流れを理解する。 民事訴訟法における原理原則、基本概念を理解する。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、民事訴訟（民事裁判）の基本構造	16	証明責任：証明責任の分配、推定			
2	民事訴訟の基本原則、民事訴訟法の構造	17	証拠調べ1 総論：書証・証人尋問・当事者尋問・鑑定・検証			
3	訴訟の開始	18	証拠調べ2 各論：文書提出命令、証拠保全			
4	訴え提起の効果	19	口頭弁論における当事者の訴訟行為			
5	裁判所と管轄	20	判決以外の訴訟終了原因			
6	当事者1：形式的当事者概念	21	裁判と判決：裁判の種類、判決の効力			
7	当事者2：当事者能力と訴訟能力、訴訟代理	22	既判力1：既判力の客観的範囲			
8	訴訟物：訴訟物概念とその機能	23	既判力2：既判力の主観的範囲			
9	訴訟要件1：訴訟要件、訴えの利益	24	一部請求と既判力、訴訟上の相殺			
10	訴訟要件2：当事者適格、第三者の訴訟担当	25	判決効に関する論点			
11	裁判所と当事者の役割分担、口頭弁論	26	複数請求			
12	弁論主義1：弁論主義の3原則、釈明	27	複数当事者訴訟1：通常共同訴訟、必要的共同訴訟			
13	弁論主義2：裁判上の自白	28	複数当事者訴訟2：訴訟参加・訴訟承継			
14	審理の充実と訴訟促進	29	上訴・再審			
15	証拠と証明：証明とは、自由心証主義、証拠能力	30	まとめ：第一審手続の復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所及び該当する民事訴訟法の条文を読む。 復習：条文と教科書を読み直し、教科書の事例を再検討する。					
教科書	越山和広『ベーシックスタディ民事訴訟法 [第2版]』（法律文化社、2023年）、六法					
成績評価	定期試験 70%、授業における発言など積極的に取り組む姿勢 30%					
実務経験	講師は、三重弁護士会に所属する弁護士です。実務経験をもとに、実際の民事裁判の手続に即して民事訴訟法の条文と基本的な概念が理解できるようお話しします。					
その他 特記事項						